

**宮城県試験研究機関評価委員会**  
**令和5年度 第1回水産業関係試験研究機関評価部会議事録**

開催日時	令和6年3月7日(木) 10:30~12:00
開催場所	宮城県水産技術総合センター 2階大会議室 (WEB会議との併催)
評価部会委員 出席者	<p>※会場出席者</p> <p>【部会長】清水 勇吾 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 副部長)</p> <p>【部会委員】石原 慎士 (宮城学院女子大学 教授)</p> <p>※WEB出席者</p> <p>【副部会長】大越 和加 (東北大学大学院農学研究科 教授)</p> <p>【部会委員】木島 明博 (東北大学 名誉教授)</p> <p>【部会委員】大草 芳江 (特定非営利活動法人 natural science 理事)</p>
宮城県関係 出席者	<p>※会場出席者</p> <p>【新産業振興課】技術主任主査 高橋 亮輔</p> <p>【水産林業政策室】企画員(副班長) 千葉 朋彦、 技術主査 鈴木 矩晃</p> <p>【水産業振興課】技師 野知里 優希</p> <p>【水産技術総合センター】</p> <p>所長 浅野 勝志、 副所長 田代 義和、 副所長 日下 啓作</p> <p>技術副参事兼総括技術次長 富川なす美</p> <p>【気仙沼水産試験場】場長 湯澤 麻美、 技師 長田 知大</p> <p>【内水面水産試験場】場長 小野寺 毅</p>
傍聴者	0人

### 1. 開会

・事務局(日下)が開会を宣言し、「審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱」に基づき、本評価部会が公開であることを説明した。また、委員全員が出席していることから、試験研究機関評価委員会条例4条の規定に基づき、本評価部会が成立していることを報告した。

### 2. 諮問書の交付

・浅野所長が、知事からの諮問書を読み上げ、清水部会長に手渡した。

### 3. 【清水部会長あいさつ】

- ・本日は年度末のお忙しい中、本会合にご参集頂きありがとうございます。
- ・本水産部会の部会長を務めることとなりました、水産資源研究所塩釜庁舎海洋環境部副部長の清水と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

- ・私は昨年(2011年)の4月に水産資源研究所塩釜庁舎に赴任いたしました。
- ・さて、宮城県の水産業をめぐる状況についてですが、2011年3月に東日本大震災が発生して約13年、その間復興が進み現在は全国屈指の漁業生産額を上げるまでになりました。
- ・ただ、昨年の夏には福島第一原発のALPS処理水が放出され風評被害が懸念されるなど、震災からの時間経過とともに大震災をめぐる情勢も変化しているところです。
- ・また、記憶も新しいことと思いますけど、昨年の夏は宮城県地方で記録的な猛暑に見舞われまして海水温が極端に高い状態となりました。
- ・宮城県沖合ではさらに黒潮続流が北上して平年より暖かい水が宮城県海域を覆う状況が現在も続いております。
- ・地球温暖化が進み少しずつ、気温と海水温が上昇している中でこの様な極端な現象が発生し、宮城県ではタチウオ、ケンサキイカなどの暖水性魚種の増加やサケの記録的な不漁、高温による養殖物のへい死など、突発的な漁業被害が続いている状況と理解しております。
- ・そのような中で宮城県には全国に先駆けて「不漁対策検討会」を開催し漁業の在り方を検討されてこられました。
- ・この試みは国や他の都道府県からも強く注目されております。
- ・この様に震災や気候変動などにおいて宮城県の水産試験研究機関が対応して行かなくてはならない課題が多いことと思います。
- ・私は水産部会長としまして今後の宮城県の水産業の発展に期するような建設的な研究の方向性が示していける部会にできたことを考えておりますので本日はどうぞ皆様のご協力をお願いします。
- ・これを以て、部会長の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

### 【浅野所長あいさつ】

- ・評価委員の皆様には、年度末の御多忙中にも関わらず、当センターに、ご参集いただき誠にありがとうございます。また、日頃、本県水産試験研究の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。
- ・さて、本年度の水産業の状況を振り返りますと黒潮の大蛇行に伴います黒潮続流が、本県沖合へ北上し、これまでに無い高水温となり、その影響が1年を通じて見られております。暖水系のカツオやマグロの水揚げは好調でしたが、本県にとって重要な魚種であるイカ類やサンマの水揚げは依然として低調であり、シロサケにいたっては、ふ化放流事業の継続も懸念される等、大変厳しい状況が続いております。
- ・養殖業においては、カキ、ホタテガイ、ホヤにへい死が見られ、ギンザケにおいても夏場の水温に耐え切れずに、養殖期間を短縮した対応を余儀なくされました。ワカメにおいても、芽出し作業の遅れ等、様々な影響が出ております。
- ・生産の現場においては、これまであたりまえに漁獲されてきた魚種が獲れず、魚種の変化等がみられ、前浜における養殖作業毎の時期についても、生産物の状況に合わせて見直さざるを得ない状況であり、先行きが不透明な過渡期にあります。当センターとしましては、このような今であるからこそ、水産試験研究の役割は大きいものと認識しております。

- ・本日、評価委員の皆様にご審議いただきますのは、まさにこの高水温の影響に対応するために気仙沼水産試験場が関係機関と連携し取組んできた成果となります。今後、この成果を広く普及させるためにも、忌憚のない御意見を頂戴したいので、よろしくお願い申し上げます。

#### 4. 出席者紹介

- ・事務局（日下）が、評価部会委員を紹介し、続いて県関係出席者を紹介した。

#### 5. 評価部会の運営

- ・事務局（日下）が、配布資料に基づき評価項目及び評価の基本的な考え方について説明した。

#### 6. 議事

- ・試験研究機関評価委員会条例の規定に基づき、清水部会長が議長となり議事を進行した。

##### (1) 審議事項 重点的研究課題の事後価について

###### 「ワカメの病障害対策と品種改良」

気仙沼水産試験場 長田技師がパワーポイント資料で事業概要及び成果について説明を行なった。

(質疑)

(石原委員)

この2年間程、経産省からの受託事業で消費者が産地への理解を深める取組を実施して欲しいとのことで、つい最近石巻フードテクノ研究会（商工会議所主体）と一緒に産地ツアーを実施した。表浜の朝採れのワカメをしゃぶしゃぶにして振舞ったところ好評でワカメがこんなに美味しいのかと言う話になった。

本県のワカメの品質を高めるためには、本研究はすごく有意義だと感じた。

タレストリスの発生で被害が大きいとのことだが、出荷状況がどの様になったのか等級がどのように変化したのか、その結果、価格はどうなったのか聞かせて欲しい。

農業では種苗管理を行う必要があり自分の畑で栽培した種を次年度に作付けすることはよろしくないこととされているが、ワカメの場合の種苗管理のあり方はどう考えたのか。

ワカメには連作障害のようなことはあるのか。

(長田技師)

等級の変化については、生産者からは下がったとの話を聞いているが、今は確かなデータは持ち合わせていないので、回答できない。

連作障害については、同じ漁場で毎年ワカメを生産したとしても悪くなることはないと考えている。ただ、タレストリスの生息場所が毎年供給されて絶え間なく生息している可能性はあるかもしれない。

また、毎年自分の生産したワカメを親に代を重ねると葉が柔らかくなったり、環境の変化に弱いもの

になったりと生産者の感覚としては言われていますが詳細は把握できていません。

(清水部会長)

海水温が上昇する中、高温耐性の品種が確立されることは願っております。

P21の海面での成長比較試験についてサンプル数はどの位であったか。

(長田技師)

各系統で30サンプル程度を測定した。

(清水部会長)

タレストリス症が令和2年度までは多かったが、それ以降少なくなった理由は何か。

(長田技師)

ハッキリとした理由は分かっていない。

令和2年までではなく、令和2年が特に多かった。何が原因かは分かっていません。

※会議全体を通してWeb参加者への音声状況が悪く、聞き取りづらいとの意見が各委員より申し出があったことから、会議終了後1週間はメールでの質問を受け付ける旨、事務局（富川）より周知した。

追加の質問については、提出されなかった。

※審議終了後、研究課題評価表の取りまとめ方法について、事務局（富川）が説明した。

- ・評価表の提出期日は、令和6年3月21日（木）までとしたい。
- ・本日配布した評価表については、既にデジタルファイルを各委員に電子メールで送っているで、メールで返信いただくか、本日の配付資料に記載のうえFAX送信いただくかのどちらかで事務局まで回答いただきたい。
- ・本日配布している内部評価の結果も評価の参考としていただきたい。
- ・事務局で取りまとめた結果は、各委員にお示しし、最終的に清水部会長に確認・承認をもらうことで本評価部会の答申としたい。

※清水部会長から、提出期日や取りまとめ方法、答申の方法について委員に確認し、了解を得た。

## 7. 報告事項「令和6年度水産関係試験研究計画（案）について

- ・宮城県産業技術開発推進要綱に基づき、事務局（富川）から令和6年度水産業試験研究計画（案）を報告した。

## 8. その他

- ・特になし。

## 9. 閉会

事務局（日下）が閉会を宣言した。